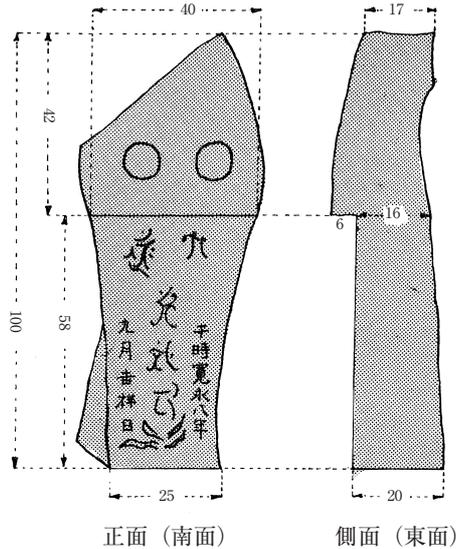


137 しょうらくいん くようとう 正楽院の供養塔



指定 市史跡 昭和49年12月1日
 所在地 平賀
 所有者 長福寺



昔、正楽院に1人の老僧がいた。ある時、「願うところがあるので、生きたまま往生したい。長い間厄介をかけたが、後の供養をも頼む。お礼には災難を除き、願いごとをかなえてやろう」といって、鈴と数珠を持って穴へ入り、節を抜いた竹筒を立てて埋められ、上から毎日水を注いで貰った。穴の中からはその後も幾日か鈴の音が続いていたが、やがてついに聞こえなくなってしまった。

村人はその上に碑を建ててねんごろに供養した。今でも子供の虫封じや、悪い風邪がはやる時、線香とおはねりを持ってお詣りする人が時折り見受けられる。

寛永8年(1631)9月吉祥日とあるこの供養塔には、上述の伝承があり、佐久地方における数少ない土中入定の例として、宗教民俗上貴重なものである。